



**シラバス参照**

タイトル「2020年度シラバス」、フォルダ「行政政策学類」  
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	スタートアップセミナー																												
担当教員	<a href="#">金井 光生</a>																												
対象学年	1年,2年,3年,4年	クラス	行:A																										
講義室		開講学期	前期																										
曜日・時限	木3	単位区分	必修																										
授業形態	演習	単位数	2																										
備考																													
特修プログラム		ナンバリング	g1110010																										
教育目標との関係 (DPポイント配分)	基盤教育 基盤教育	最新の専門知識及び技術	50 %																										
		本質を見極めるための教養と学際性	20 %																										
		協働的な問題探究	30 %																										
		社会の改善につなげる創造性	0 %																										
		市民としての主体的態度	0 %																										
授業方法	<input type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実験 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> 発表 <input type="checkbox"/> ディスカッション <input type="checkbox"/> フィールドワーク <input type="checkbox"/> ICT機器の活用																												
授業概要とねらい	<p>【授業のテーマ】 大学で「学芸」をエンジョイする自由と責任 【授業のねらい】 名著のテキスト読解を通じて、「大学で学ぶ意味を自覚し、主体的な学びのためのスキルを修得する」ことをねらいとします。 基礎的な読解力の養成だけでなく、みんなで議論しながら自らthoughtfulに思索し自分の言葉で文章表現できることを目指します。 そのプロセスにおいて、物事の調べ方、レジュメ・レポートの作成の仕方、プレゼンテーションの仕方、報告・議論の仕方、人格的コミュニケーションの仕方などを学んでいきましょう。 高校までの「勉強」と大学の「学問」との違いを頭と体で感じながら、大学生生活の良いスタートを切ることができるようにしましょう。 難しいこともあるかもしれませんが、だからこそ、学芸も人生もおもしろいのです。</p>																												
単位認定基準	<p>(1)テキストの内容の基本的な読解力を身につける。 (2)報告やプレゼンテーションの基本的なスキルを身につける。 (3)積極的に議論に参加しつつ他者の意見に耳を傾け誠実に応答する態度を身につける。 (4)自ら主体的かつthoughtfulに思索し、自分の言葉で表現する能力を身につける。</p>																												
授業計画	<p>以下はあくまで予定であり、人間と同様に「生ものとしてのゼミ(セミナー)」は絶えず変化する可能性に開かれています。 時間的余裕があれば、映像鑑賞なども適宜取り入れます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ディスカッション :「大学で学ぶこと」について</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>アカデミック・スキルの紹介</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>図書館ガイダンス</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>輪読と読解の練習:ミル「大学教育について」抜粋</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>報告と議論の練習:ミル「大学教育について」抜粋</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>小括</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>報告と議論 :齋藤「公共性」 -1章「公共性」の位置・2章「公共性と排除」</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>報告と議論 :齋藤「公共性」 -1章「市民社会と公共性」</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>報告と議論 :齋藤「公共性」 -2章「複数性と公共性」</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>報告と議論 :齋藤「公共性」 -3章「生命の保障をめぐる公共性」</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>報告と議論 :齋藤「公共性」 -4章「親密圏/公共圏」・終章「自己と公共性」</td> </tr> </tbody> </table>			回	内容	1	ガイダンス	2	ディスカッション :「大学で学ぶこと」について	3	アカデミック・スキルの紹介	4	図書館ガイダンス	5	輪読と読解の練習:ミル「大学教育について」抜粋	6	報告と議論の練習:ミル「大学教育について」抜粋	7	小括	8	報告と議論 :齋藤「公共性」 -1章「公共性」の位置・2章「公共性と排除」	9	報告と議論 :齋藤「公共性」 -1章「市民社会と公共性」	10	報告と議論 :齋藤「公共性」 -2章「複数性と公共性」	11	報告と議論 :齋藤「公共性」 -3章「生命の保障をめぐる公共性」	12	報告と議論 :齋藤「公共性」 -4章「親密圏/公共圏」・終章「自己と公共性」
回	内容																												
1	ガイダンス																												
2	ディスカッション :「大学で学ぶこと」について																												
3	アカデミック・スキルの紹介																												
4	図書館ガイダンス																												
5	輪読と読解の練習:ミル「大学教育について」抜粋																												
6	報告と議論の練習:ミル「大学教育について」抜粋																												
7	小括																												
8	報告と議論 :齋藤「公共性」 -1章「公共性」の位置・2章「公共性と排除」																												
9	報告と議論 :齋藤「公共性」 -1章「市民社会と公共性」																												
10	報告と議論 :齋藤「公共性」 -2章「複数性と公共性」																												
11	報告と議論 :齋藤「公共性」 -3章「生命の保障をめぐる公共性」																												
12	報告と議論 :齋藤「公共性」 -4章「親密圏/公共圏」・終章「自己と公共性」																												

	13	ディスカッション : 「公共性」について
	14	ディスカッション : 再び「大学で学ぶこと」について
	15	総括: 全体のまとめ
	16	
教材・教科書	J.S.ミル(竹内一誠訳)『大学教育について』(岩波文庫、2011年) * 必要部分は配布しますが、本書の購読を勧めます。 齋藤純一『公共性』(岩波書店、2000年) * 購入をお願いします。	
参考図書	苅谷剛彦『知的複眼思考法』(講談社+ 文庫、2002年) 木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』(星海社新書、2012年) 齋藤孝『読書力』(岩波新書、2002年) 佐藤望ほか編著『アカデミック・スキルズ(第3版)』(慶応義塾大学出版会、2020年) 田中共子編『よくわかる学びの技法(第3版)』(ミネルヴァ書房、2018年)	
参考URL	国立国会図書館「日本国憲法の誕生」サイト: <a href="http://www.ndl.go.jp/constitution/">http://www.ndl.go.jp/constitution/</a>	
授業以外の学習	授業の予習・復習 図書館で参考文献を調べ読む レポート等の課題(夏休み課題として、神谷美恵子『生きがいについて』[1966年](みすず書房、2004年)の読書レポートを課す予定)	
成績評価の方法	演習なので出席必須で、発言・議論・課題等を総合して評価します。	
成績評価の基準	S: 単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた(90~100点) A: 単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた(80~89点) B: 単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた(70~79点) C: 単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた(60~69点) F: 単位認定基準の学修成果をあげられなかった(~59点)	
オフィスアワー	メールによる事前連絡により適時に対応します。	
授業改善・工夫	ディスカッションをしやすいように改良。	
留意点・注意事項	全授業の2/3以上の出席を評価の必須条件とします。 受講生の数や指導講師のスケジュールによって、授業の内容や順番などの変更がある場合があります。	
教員の実務経験の有無		

